

病害虫発生予察情報(9月予報)

令和8年8月26日

静岡県病害虫防除所長

1 予報概況

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均平年値)	予報の根拠
稲	いもち病 (穂いもち)	発生量：少 (発病株率 0.1%)	8月中旬の葉いもち発生量：少 (－) 8月中旬の穂いもち発生量：少 (発生なし) (－) 気象予報：気温：高い (－) 降水量：並か少ない (－)
	紋枯病	発生量：少 (発病株率 11.3%)	8月中旬発生量：少 (発生なし) (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (－)
	トビイロウンカ	発生量：少 (寄生数 0.6 頭/株)	8月中旬発生量：少 (発生なし) (－) 8月の成虫誘殺数：少 (誘殺なし) (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	斑点米カメムシ類	発生量：やや多	8月中旬発生量：並 (±) 8月の成虫誘殺数：やや少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	コブノメイガ	発生量：多 (被害株率 4.9%)	8月中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
温州みかん	かいよう病	発生量：多 (発病度(果) 0.1)	8月上中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (－)
	黒点病	発生量：やや多 (発病度 2.0)	8月上中旬発生量：やや多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (－)
	ミカンハダニ	発生量：多 (寄生葉率 1.7%)	8月上中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量：やや多 (寄生果率 0.1%)	8月上中旬発生量：並 (±) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
中晩柑類	かいよう病	発生量：やや多 (発病度(果) 0.7)	8月上中旬発生量(果)：並 (±) 8月上中旬発生量(葉)：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (－)
かき	ハマキムシ類	発生量：やや少 (被害葉率 0.7%)	8月中旬発生量：少 (－) フェロモントラップ誘殺数：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (±)

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均平年値)	予報の根拠
果樹全般	果樹カメムシ類	飛来数：多	予察灯誘殺数：多 (＋) フェロモントラップ誘殺数：少 (－) ヒノキ着果量：多 (＋) ヒノキ寄生数：多 (＋) ヒノキ球果吸汁痕数：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (±)
茶	炭疽病	発生量：少 (病葉数 23.2 葉/1.25m ²)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (±) 降水量：並か少ない (－)
	チャノキイロ アザミウマ	発生量：並 (叩き落とし虫数 4.9 頭/4 か所)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	チャノミドリ ヒメヨコバイ	発生量：並 (叩き落とし虫数 1.1 頭/4 か所)	8月上中旬発生量：やや少 (－) 気象予報：気温：高い (±) 降水量：並か少ない (＋)
	チャノホソガ	発生量：やや少 (巻葉数 0.9 葉/1.25 m ²)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (±) 降水量：並か少ない (＋)
	ヨモギエダシャク	発生量：やや少 (叩き落とし虫数 0.1 頭/4 か所)	8月上中旬発生量：少 (－) 予察灯誘殺数：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	カンザワハダニ	発生量：並 (寄生葉率 2.6%)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	クワシロ カイガラムシ	発生量：多 (寄生株率 1.3%) 発生時期：やや早い	8月上中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (±) 降水量：並か少ない (＋)
ねぎ (白ねぎ)	疫病	発生量：少 (発病株率0.02%)	8月中旬発生量：少(発生なし) (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (－)
	黒斑病・葉枯病	発生量：やや多 (発病株率4.7%)	8月中旬発生量：多 (＋) ネギアザミウマ発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (±) 降水量：並か少ない (－)
	シロイチモジヨトウ	発生量：多 (寄生株率1.5%)	8月中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	ネギハモグリバエ	発生量：やや少 (寄生株率 34.0%)	8月中旬発生量：少 (－) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)
	ネギアザミウマ	発生量：多 (寄生株率 8.7%)	8月中旬発生量：多 (＋) 気象予報：気温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)

作物名	病害虫名	予報 (9月の県平均平年値)	予報の根拠
いちご	炭疽病	発 生 量：やや少 (10月発病株率 1.9%)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気 温：高い (＋) 降水量：並か少ない (±)
	うどんこ病	発 生 量：少 (10月発病株率 0.8%)	8月上中旬発生量：少 (－) 気象予報：気 温：高い (－) 降水量：並か少ない (±)
	ハダニ類	発 生 量：多 (10月寄生株率 12.4%)	8月上中旬発生量：多 (＋) 気 象 予 報：気 温：高い (＋) 降水量：並か少ない (±)
	アブラムシ類	発 生 量：やや少 (10月寄生株率 4.5%)	8月上中旬発生量：少 (－) 気 象 予 報：気 温：高い (＋) 降水量：並か少ない (±)
	ハスモンヨトウ	発 生 量：やや多 (10月寄生株率 0.8%)	8月上中旬発生量：多 (＋) フェロモントラップ誘殺数：並～やや少 (±～－) 気象予報：気 温：高い (＋) 降水量：並か少ない (±)
作物全般	オオタバコガ	発 生 量：やや多	フェロモントラップ 誘殺数：並～少 (±～－) 気象予報：気 温：高い (＋) 降水量：並か少ない (＋)

表の見方について

- ・ 予報の発生量は平年(静岡県の過去 10 年間)との比較で、「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の発生時期は、時期の予想ができる病害虫に限り、平年(静岡県の過去 10 年間)との比較で、「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階で示しています。
- ・ 予報の根拠には、巡回調査に基づく発生状況(調査時期と発生量)、気象庁の1か月予報(気温と降水量)を記入しています。その状況が多発要因の場合は(＋)、少発要因の場合は(－)を示し、＋－を総合的に判断して発生時期、発生量を予想しています。



静岡県病害虫防除所 HP

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinijimu sho/1058658/boujo/index.html>



静岡県総合防除計画 HP

<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/nogyo/no uyaku/1003316/1062325.html>

2 予報の根拠と防除対策

【稲】

＜生育の概況等＞

巡回時（調査期間：8月13日～20日）の生育は早期栽培が概ね乳熟期～成熟期、普通期栽培が概ね出穂期～糊熟期であった。病虫害防除員からのアンケート調査によると、生育は平年並からやや早い傾向。

●いもち病（穂いもち）

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、県全体の葉いもちの平均発病株率は1.2%（平年2.3%）と平年より少なかった。
- ・8月中旬の巡回調査では、穂いもちの発病は確認されなかった（平年発病株率0.04%）。
- ・本病は葉いもちを主要な伝染源とし、出穂以降、穂の各部に付着した病原菌により発病する。低温及び降雨は本病の発生を助長する。1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温も平年より高いため、本病の発生を助長しない。

防除対策

- ・育苗箱処理剤の残効は出穂期頃までなので、効果の切れた時期以降で、本病の発生に適した雲雨天で日照不足が続く場合は注意が必要である。
- ・葉いもちの急性型病斑（病斑周辺部に褐色部分が少なく、病斑が暗緑色あるいはねずみ色）が多いときには、速やかに薬剤散布をする。
- ・現在、上位葉に発生している葉いもちは、穂いもちの発生を助長する。そのため、葉いもちが多発しているほ場では、穂いもちの防除を適期（穂ばらみ期～穂揃期）に2回行う。
- ・さらに多発が予想される場合は傾穂期に追加防除を行う。
- ・常発地では適期に薬剤の予防散布を行う。
- ・近年、他県ではQoI剤耐性いもち病菌が発生し問題となっており、本県でも発生が懸念されるため、耐性菌の発生リスクが高い薬剤を使用する場合は、連用を避けるなど適切に使用する。詳細は[日本植物病理学会殺菌剤耐性菌研究会ホームページ「殺菌剤使用ガイドライン」](#)を参照。

●紋枯病

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、発病は確認されなかった（平年発病株率6.7%）。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を助長しない（本病は生育適温28～32℃と高温を好む）。

防除対策

- ・水田等で越冬した菌核が一次伝染源となるため、前年発生がみられたほ場では発生しやすい。そのようなほ場では発生に注意し、発生が見られた場合は速やかに薬剤防除を行う。
- ・病斑が上位葉鞘まで上がると減収の要因になる。特に過繁茂となっているほ場では多発しやすいため、そのようなほ場では今後の発生に注意する。

●トビイロウンカ

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、本種の寄生は認められなかった（平年0.03頭/株）。
- ・県内4か所の予察灯におけるトビイロウンカの誘殺は確認されなかった。

- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の増殖が助長される気象条件である。

防除対策

- ・ 巡回調査および予察灯では本種の発生は確認されていないが、場所によっては飛来している可能性があるため、ほ場をよく観察し、今後の発生に注意する。なお、誘殺数データは静岡県病虫害防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」で提供している。
- ・ 9 月の気温が高い場合には急増することがあるので注意する。葉色に注意し、水田内で坪状に葉が黄化している場合は株元を観察し、成幼虫の寄生が確認された場合は直ちに薬剤防除を行う。

●斑点米カメムシ類（イネカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ等）

予報の根拠

- ・ 8 月中旬の水田におけるすくい取り調査では、平均捕獲数は 1.7 頭／30 回振り（平年 1.8 頭）と平年並だった。地域別では、中遠西部地域では平年より多く、その他の地域では平年並〜少なかった。
- ・ 県内 4 か所の予察灯における 8 月 1 日～15 日の斑点米カメムシ類の合計誘殺数は、平年よりやや少なく推移している。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本虫の増殖を助長する。

防除対策

- ・ 予察灯の誘殺数データは静岡県病虫害防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」で提供している。
- ・ 出穂後は、水田内の斑点米カメムシ類の発生に注意し、確認された場合は薬剤防除を実施する。
- ・ 斑点米カメムシ類（イネカメムシを除く）に対する薬剤散布は、成虫侵入期となる穂揃期（すべての茎のうち 80%の茎で穂が出た状態）とその 7 日～10 日後（幼虫ふ化期）の 2 回行くと防除効果が高い。
- ・ イネカメムシに対する薬剤散布は、不稔対策として成虫侵入期となる出穂期（すべての茎のうち 50%前後の茎で穂が出た状態）と斑点米対策として出穂期から 7 日～10 日後（幼虫ふ化期）に薬剤散布を行うと防除効果が高い。
- ・ 薬剤感受性の低下を避けるため、作用機構分類コードを参照し、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。薬剤については、「[静岡県農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準](#)」を参照する。

●コブノメイガ

予報の根拠

- ・ 8 月中旬の巡回調査では、平均被害株率は 6.7%（平年 3.1%）と平年より多かった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の増殖を助長する。

防除対策

- ・ 出穂期頃の水稲が加害されると登熟歩合が低下するので、成幼虫の発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

【温州みかん】

<生育の概況等>

病虫害防除員からの報告によると、生育は数日早く、果実の肥大は地域によりばらついているが平年並〜やや良い。

●かいよう病

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、果実の発病度は 1.5（平年 0.1）、葉の発病度は 4.6（平年 0.2）と平年より多かった。
- ・ 1 か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を特には助長しない。ただし、台風などの強風を伴う雨が発生した場合は助長される。

防除対策

- ・ 温州みかんは中晩柑類に比べて本病に感染しにくいとされているが、昨年から多発が続いている。
- ・ 本病は風雨により伝染する。台風などの強風を伴う雨によって感染が著しく助長され、急激に多発する場合がある。台風の接近が増える時期となるため、気象情報と園地の発生状況に注意し、感染拡大を防ぐよう降雨前の予防散布に重点を置く。
- ・ 発病枝は伝染源となるため除去する。発病した夏秋枝は特に除去する。
- ・ ミカンハモグリガの被害は本病の発生を助長するため、ハモグリガの防除を行い、被害枝は除去する。
- ・ 風ずれなどの傷口から病原菌が侵入するため、防風垣や防風網の整備など防風対策をする。
- ・ 防除対策については「[令和 8 年度技術情報第 2 号（温州みかん、中晩柑類 かいよう病）](#)」も参照する。

●黒点病

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、平均発病度は 2.4（平年 1.9）と平年よりやや多かった。
- ・ 1 か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を特には助長しない。

防除対策

- ・ 20～27℃の水滴中で孢子が発芽し、葉や果実に感染して黒点が出来。降雨日の最低気温が 22℃以上になると容易に感染する。
- ・ 伝染源となる枯枝は除去し、園内や周囲には放置しない。
- ・ 防除実施日以降の累積降水量が 250～300mm、または防除実施日から 25 日～30 日経過した時点が次の防除実施の目安となる。アメダスなどの気象データを確認し、栽培地域の累積降水量が増えた場合は防除を早めて実施する。
- ・ 9 月以降の後期感染を防止するため、降雨の前など、適宜防除を実施する。ただし、早生品種の防除は収穫前日数に注意する。

●ミカンハダニ

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、平均寄生葉率は 7.7%（平年 4.8%）と平年より多かった。
- ・ 地域別では、東部で 12.8%（平年 6.3%）、中部で 9.3%（平年 4.9%）、西部で 1.1%（平年 3.1%）と東部・中部での発生が平年より多かった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

防除対策

- ・ 着色期以降に発生すると果実が着色不良となり商品価値が低下するため、発生がみられた場合は薬剤防除を行う。

●チャノキイロアザミウマ

予報の根拠

- ・8月上中旬の巡回調査では、平均寄生果率は0.07%（平年0.08%）と平年並だった。また、果梗部被害度は1.3（平年0.7）、果頂部被害度は0.03（平年0.1）であった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の発生を助長する。

防除対策

- ・アメダス気象データを用いた予測によると、今後の気温が平年並で推移した場合、第6世代成虫の発生ピークは8月17日～9月4日（既にピークを迎えた産地もある）、第7世代成虫の発生ピークは9月4日～27日、第8世代成虫の発生ピークは9月25日～11月3日と予想される（昨年並～数日遅い。産地により発生時期が異なる）。なお、今後の気温が平年より高く推移した場合、各世代成虫発生ピークは早まるため注意する。
- ・産地ごとの詳細な防除時期は、病虫害防除所ホームページ「[防除時期等予測](#)」を参照する。
- ・本種各世代において、発生ピークの1週間前～発生ピークまでが薬剤防除適期である。
- ・普通温州みかん園では寄生果率10%以上を目安に防除を行う。

【中晩柑類】

●かいよう病

予報の根拠

- ・8月上中旬の巡回調査では、果実の平均発病度は0.6（平年0.7）と平年並であり、葉の発病度は1.6（平年0.7）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を特には助長しない。ただし、台風などの強風を伴う雨が発生した場合は助長される。

防除対策

- ・病原菌の生育適温は20～30℃であり、風雨により伝染する。台風などの強風を伴う雨によって感染が著しく助長され、急激に多発する場合がある。気象情報と園地の発生状況に注意し、降雨前の予防散布に重点を置く。
- ・発病枝は伝染源となるため除去する。発病した夏秋枝は特に除去する。
- ・ミカンハモグリガの被害は本病の発生を助長するため、ハモグリガの防除を行い、被害枝は除去する。
- ・風ずれなどの傷口から病原菌が侵入するため、防風垣や防風網の整備など防風対策をする。
- ・発生状況及び防除対策については、[「令和8年度技術情報第2号（温州みかん、中晩柑類 かいよう病）」](#)も参照する。

【かき】

<生育の概況等>

病虫害防除員からの報告によると、生育は平年並～やや早く、果実の肥大は平年並である。

●ハマキムシ類

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では本種による被害は認められなかった（平年被害葉率0.4%）。
- ・浜松市内のフェロモントラップにおける8月の誘殺数は、平年より少なく推移している。

- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 地域の予察灯やフェロモントラップにおける成虫の誘殺状況に注意し、適期に防除する。なお、誘殺データは静岡県病害虫防除所ホームページ [「害虫誘殺グラフ」](#) を参照する。

<その他の病害虫>

●フジコナカイガラムシ

- ・ 8 月中旬の巡回調査では、本種の寄生は認められなかった（平年寄生果率 0.8%）。
- ・ 本種は果実とへたの間に寄生しており薬剤が届きにくいいため、丁寧に散布を行う。

【果樹全般】

●果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）

予報の根拠

- ・ 県内 4 か所の予察灯における 8 月 1 日～20 日の合計誘殺数の平均は、1621 頭（平年 505 頭、平年比 3.2 倍）と平年より多かった。なお、本虫の内訳は、チャバネアオカメムシが 968 頭（平年 300 頭）、ツヤアオカメムシが 538 頭（平年 92.2 頭）、クサギカメムシが 115 頭（平年 113 頭）であった。現時点で県内における多くの果樹園では本虫の飛来はみられていないが、予察灯への誘殺数が急増していることから、今後、本虫が果樹園等に大量飛来する可能性がある。
- ・ 県内 6 か所のフェロモントラップにおける 8 月 1 日～20 日の合計誘殺数の平均は、10.1 頭（平年 172 頭）と平年より少なかった。
- ・ ヒノキ球果の着果量（指数）は、県平均 7.9（平年 4.5）と平年より多かった。なお、本虫は球果を餌として増殖するため、着果量が多いと新成虫の増殖は助長される。
- ・ 8 月上中旬のヒノキ球果における本虫の平均寄生数／10 結果枝は、17.5 頭（平年 4.2 頭）と平年より多かった。また、地域別では、東部で 20.8 頭、中部で 17.0 頭、西部で 16.1 頭と、県内全域で発生が平年より多かった。今後、ヒノキで増殖した本虫が球果を吸い尽くすとヒノキから離脱し、果樹園等に大量飛来するとともに果実を加害するおそれがある。
- ・ 8 月上中旬のヒノキ球果における本虫の平均吸汁痕数／球果は 7.3（平年 11.3）と平年より少なかった。なお、本県ではヒノキ球果における吸汁痕が 20 に近づくと、本虫がヒノキから離脱するとされている。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本虫の発生を助長する。
- ・ 以上を総合的に判断すると、9 月の果樹園への飛来数は平年より多いと予想される。

防除対策

- ・ ヒノキ球果での本虫吸汁痕数をもとにした予測式（堤、2003）によるヒノキからの離脱予測日（果樹園への飛来予測日）は、9 月 3 日～5 日頃（地域により異なる）と予想される。ただし、吸汁痕数が最も多い地点（東部地域）での飛来予測日は 8 月 26 日頃と予想される。
- ・ なお、1 か月予報では、気温は平年より高く、本虫の増殖が助長されることにより、ヒノキ球果を予測よりも早期に吸い尽くす可能性がある。これによりヒノキからの離脱が早まり、予測よりも早く果樹園へ大量飛来する可能性もあるため、最大限の警戒を払う。
- ・ 静岡県病害虫防除所ホームページ [「害虫誘殺グラフ」](#) では、本虫に関する各種情報（予察灯及びフェロモントラップにおける発生状況、ヒノキ球果の着果量や球果における寄生数、球果での吸汁痕数、果樹園への秋季以降の飛来予測日等）を随時提供しているので参照する。

- ・これら最新情報を確認し、本虫の飛来が予想される場合には、ほ場の見回りをこまめに行う。ほ場で少数でも本虫の発生を確認したら、本虫が集合フェロモンを放出し大量飛来を招く前に、直ちに薬剤防除を行う。また、周辺ほ場への大量飛来がみられた場合、飛来前の予防的な薬剤散布を心掛ける。なお、本虫の移動範囲は広いため、地域での一斉防除が効果的である。また、ヒノキ・スギ林の隣接地域（特に中山間地）や台風・暴風雨後の園地では、急激に発生が増加する場合があるので注意する。
- ・薬剤防除については、「静岡県農薬安全使用指針・農作物病虫害防除基準」を参照する。なお、薬剤の選択に際しては収穫前日数に注意する。
- ・防除対策については、「令和8年度注意報第3号（かんきつ、落葉果樹 果樹カメムシ類）」も参照する。

【茶】

＜生育の概況等＞

秋芽の生育状況は萌芽前～開葉期と、茶園の管理によりばらつきがある。

●炭疽病

予報の根拠

- ・8月上中旬の巡回調査では、平均発病葉数は1.4葉/1.25㎡(平年17.1葉/1.25㎡)と平年よりも少なかった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を特には助長しない(分生子の発芽適温 22～27℃)。

防除対策

- ・本病の感染には、新芽生育期に降雨による胞子の飛散と10時間以上の葉の濡れが必要であり、本病の潜伏期間はおおよそ20日と長い。秋芽生育初期に半日以上続く降雨があった場合には、早め(萌芽期～2葉期)に防除を行う。秋冬番茶を摘採する茶園で伝染源が多いほ場では、速やかに有効期間が長い浸透性殺菌剤を散布する。一方、生育中期以降に降雨があった場合は、たとえ感染しても秋冬番茶の摘採で新芽の上部は症状が出る前に刈られるので、防除の必要はない。

●チャノキイロアザミウマ

予報の根拠

- ・8月上中旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は6.2頭/4か所(平年11.9頭/4か所)と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・9月に秋冬番茶を摘採する茶園では、秋芽の萌芽期～開葉期に防除を行う。

●チャノミドリヒメヨコバイ

予報の根拠

- ・8月上中旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は0.6頭/4か所(平年0.9頭/4か所)と平年よりやや少なかった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・9月に秋冬番茶を摘採する茶園では、秋芽の萌芽期～開葉期に防除を行う。

●チャノホソガ

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、平均巻葉数は 0.1 葉/1.25 m²（平年 0.9 葉/1.25 m²）と平年より少なかった。
- ・ 1 か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年並か少ないため、発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 新芽生育期と成虫発生期が合致すると発生が多くなる。
- ・ 地域の予察灯やフェロモントラップにおける誘殺虫数の推移や新芽への産卵状況に注意し、秋冬番茶を摘採する茶園では適期防除に努める。なお成虫の誘殺数データは静岡県病虫害防除所ホームページ「[害虫誘殺グラフ](#)」で提供している。

●ヨモギエダシャク

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、平均叩き落とし虫数は 0.06 頭/4 か所（平年 0.12 頭/4 か所）と平年より少なかった。
- ・ 茶業研究センターの予察灯における直近 1 か月間の誘殺状況は、平年よりも少なく推移している。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・ 茶園内で局所的に発生するので茶園をよく観察し、薬剤感受性の高い若齢幼虫の時期に防除を行う。
- ・ 若齢幼虫は若葉を好むため、食害の有無をよく観察し早期発見に努める。また、樹木や電柱、小屋、放置した資材などに産卵するので、これらの近くでは特に発生に注意する。

●カンザワハダニ

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、樹冠面の平均寄生葉率は 0.7%（平年 4.4%）と平年より少なかった。
- ・ 本種の天敵であるカブリダニ類の平均叩き落とし数は、0.3 頭/4 か所（平年 0.9 頭/4 か所）と平年より少なかった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・ 9 月に秋冬番茶を摘採する茶園や、発生認められている茶園では、天敵への影響が少ない薬剤を選択して防除を行う。
- ・ 降雨が少ない状況が続いているため、現在発生のみられない茶園でも発生に注意し、発生がみられた場合は、早期に防除を実施する。

●クワシロカイガラムシ

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の巡回調査では、平均寄生株率は 18.0%（平年 4.4%）と平年より多かった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生をやや助長する。
- ・ アメダスの気温データに基づく茶業研究センター（菊川市）の第 3 世代予想ふ化最盛日は、8 月 19 日の計算によると平年より 6 日早い 9 月 4 日と予想される。

防除対策

- ・ アメダス地点の予想ふ化最盛日については、静岡県病虫害防除所ホームページ「[防除時期等予測](#)」で提供している。これを参考に各地の茶園内のふ化状況をよく観察し、適期防除を行う。なお、7 月に防除

した茶園では、系統の異なる薬剤を使用して防除する。

- ・本種は6月時点で多発が認められていたため、令和8年6月26日付けで「[令和8年度病害虫発生予察注意報第2号](#)」を発表している。発生状況及び防除対策については、そちらも参照する。

＜その他の病害虫＞

●褐色円星病

- ・本病は、春先になって落葉が始まってからの防除では効果がない。一番茶摘採期に発生の多かった茶園や二番茶残葉に緑斑症状が多数見られる茶園では、秋芽の生育期～硬化期に必ず1～2回防除する。

●赤焼病

- ・つゆひかり等の感受性品種では、春先に発病して枯死した枝や茎葉内に病原細菌が残存して越冬している。この菌が秋以降、台風の風雨による傷などで増殖し、冬の発病につながるため、台風の通過前後に薬剤散布を実施し、菌密度を下げしておく。

●チャノホコリダニ

- ・8月中旬～9月にかけて乾燥が続くと、秋芽にチャノホコリダニが多発することがある。秋冬番茶を摘採する茶園では、発生に注意し、早めに防除する。

【ねぎ】

＜生育の概況等＞

生育は平年並で推移している。

●疫病

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、発生は認められなかった（平年発生なし）。
- ・1か月予報では、気温は平年より高いが、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を特には助長しない（病原菌生育適温 28～30℃）。

防除対策

- ・多湿な環境で発生が多いため、例年発生が認められるほ場では、溝を切るなどしてほ場排水を良くする。
- ・窒素肥料の多用は本病を助長するため、施用量に気をつける。

●黒斑病・葉枯病

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均発病株率は6.0%（平年1.7%）と平年より多かった。
- ・8月中旬のネギアザミウマの平均寄生株率は27.2%（平年20.4%）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か少ないため、本病の発生を特には助長しない。

防除対策

- ・肥料切れや草勢の衰えは発病を助長するので、適切に施肥を行う。
- ・風ずれやネギアザミウマの食害は本病の発生を助長するため、防風ネットの設置やアザミウマの防除に努める。
- ・薬剤防除は、予防散布または発病初期の防除に努める。

●シロイチモジヨトウ

予報の根拠

- ・8月中旬の巡回調査では、平均寄生株率2.4%（平年1.4%）と平年より多かった。

- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・ 例年 9 月に発生が増加することから、ほ場をよく観察し、薬剤感受性が高い若齢幼虫のうちに防除する。
- ・ すでに発生が増加しているほ場では、早めに薬剤散布を行う。

●ネギハモグリバエ

予報の根拠

- ・ 8 月中旬の巡回調査では、平均寄生株率は 0.4%（平年 21.2%）と平年より少なかった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・ 食害が激しい B 系統の発生により、葉が真っ白になる被害が散見されている。多発すると生育が遅れるため、本種の発生に注意し早期に防除を行う。

●ネギアザミウマ

予報の根拠

- ・ 8 月中旬の巡回調査では、平均寄生株率 27.2%（平年 20.4%）と平年より多かった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、発生を助長する。

防除対策

- ・ 多発すると生育が遅れるため、発生が増加する前に防除を行う。すでに、発生が増加しているほ場では早めに防除を行う。
- ・ 本種はネギえそ条斑病の原因となるアイリス黄斑ウイルス（IYSV）を伝搬する。罹病株はタマネギやエシャレット等、他のネギ類への伝染源となるため、見つけ次第ほ場の外に持ち出し、土中に埋める等の処分をする。

【いちご】

<生育の概況等>

病害虫防除員からの報告によると、苗の生育は平年並で推移している。

●炭疽病

予報の根拠

- ・ 8 月上中旬の育苗ほ巡回調査では、平均発病株率は 0.2%（平年 1.7%）と平年より少なかった。
- ・ 1 か月予報では、降水量は平年並か少ないが、気温は平年より高いため、本病の発生をやや助長する。

防除対策

- ・ 病原菌の生育適温は 28℃前後であり、高温・多湿条件下で多発生しやすい。
- ・ 発病株からその周囲へと伝染するため、ほ場の見回りを徹底し発病株や発病が疑われる株の早期発見に努める。
- ・ 発病株は培土も含めて抜き取りほ場外へ出す。放置残さは伝染源となるため、ビニール袋に入れて腐らせるなど、適切に処理を行ってから処分する。
- ・ 本病原菌は水滴の飛散によって伝染するため、頭上かん水は避け、株元かん水など水の跳ね返りを防ぐ形でかん水を行う。
- ・ 薬剤散布も伝染を助長する可能性があるため、散布前にはほ場の見回りと発病株の抜き取りを徹底し、発病株への散布は行わない。感受性低下の疑われる剤（MBC 殺菌剤（FRAC: 1）、QoI 殺菌剤（FRAC:11））

の散布は避け、薬剤抵抗性リスクの低い保護殺菌剤（FRAC:M1～11）を使用する。

- ・発病後は薬剤による治癒が困難であるため、定期的な防除による予防を心がける。激しい雨や台風など水滴が飛散しやすい状況の前後は重点的に防除を行う。
- ・発病株や発病が疑われる株は定植苗には使用せず、病原を本ぼへ持ち込まない。

●うどんこ病

予報の根拠

- ・8月上中旬の育苗ほ巡回調査では、平均発病株率は0.4%（平年0.8%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少ないが、気温は平年より高いため、本病の発生を特には助長しない。

防除対策

- ・胞子の発芽適温は20℃前後であるため高温期の発病は抑制される。そのため本病の発生が停滞、終息したように見えるが、最高気温が30℃を下回りだすと再び発生が増加するため注意する。
- ・6月～7月に発生がみられたほ場では薬剤散布による予防を継続し、発病葉の除去を行う。無病苗の定植に努め、病原を本ぼへ持ち込まないように注意する。

●ハダニ類

予報の根拠

- ・8月上中旬の育苗ほ巡回調査では、平均寄生株率は14.2%（平年8.8%）と平年より多かった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・育苗期の防除を徹底し、ハダニ類を本ぼへ持ち込まないように注意する。

●アブラムシ類

予報の根拠

- ・8月上中旬の育苗ほ巡回調査では、平均寄生株率は3.8%（平年6.2%）と平年より少なかった。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・初期防除に努め、アブラムシ類を本ぼへ持ち込まないように注意する。

●ハスモンヨトウ

予報の根拠

- ・8月上中旬の育苗ほ巡回調査では、平均寄生株率は0.4%（平年0.1%）と平年より多かった。
- ・フェロモントラップにおける直近1か月の誘殺数は、静岡市及び御前崎市では平年並～やや少なく、磐田市では平年並で推移している。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の発生をやや助長する。

防除対策

- ・初期発生に注意し、若齢のうちに防除する。施設の開口部に防虫網を設置し侵入を防ぐ。

<その他の病害虫>

●コガネムシ類

- ・県内3か所の予察灯における8月の誘殺数は、平年より多く推移している。
- ・幼虫が根を食害することで生育が妨げられて欠株となる。ポット育苗時や本ぼ定植前等に幼虫を対象として薬剤防除を実施する。

- ・定植時には根への幼虫の寄生に注意し、本ぼへ幼虫を持ち込まないように注意する。

【作物全般】

●オオタバコガ

予報の根拠

- ・県内3か所のフェロモントラップにおける7月16日～8月15日の誘殺数は磐田市富丘では平年並に推移しており、浜松市中央区協和町及び伊左地町では平年より少なく推移している。
- ・1か月予報では、降水量は平年並か少なく、気温は平年より高いため、本種の増殖を助長する。

防除対策

- ・本種は幼虫の成長に伴い、植物体へ食入するため、薬剤の防除効果が低下する。そのため、ほ場を観察し早期発見および初期防除に努める。

3 季節予報

● 1 か月予報 （東海地方 令和 8 年 8 月 2 0 日 名古屋地方気象台発表）

【予報期間】 8 月 2 2 日から 9 月 2 1 日

【予想される向こう 1 か月の天候】

特に注意を要する事項		期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。
向こう 1 か月	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率 8 0 % です。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに 4 0 % です。
1 週目	気温	1 週目は、高い確率 8 0 % です。
2 週目	気温	2 週目は、高い確率 8 0 % です。
3 ～ 4 週目	気温	3 ～ 4 週目は、高い確率 6 0 % です。

【確 率】

期間	要素	低・少	平年並	高・多 %
1 か月	気温	1 0	1 0	8 0
1 か月	降水量	4 0	4 0	2 0
1 か月	日照時間	3 0	3 0	4 0
1 週目	気温	1 0	1 0	8 0
2 週目	気温	1 0	1 0	8 0
3 ～ 4 週目	気温	1 0	3 0	6 0

【予報の対象期間】

1 か月 : 8 月 2 2 日（土）～ 9 月 2 1 日（月）
 1 週目 : 8 月 2 2 日（土）～ 8 月 2 8 日（金）
 2 週目 : 8 月 2 9 日（土）～ 9 月 4 日（金）
 3 ～ 4 週目 : 9 月 5 日（土）～ 9 月 1 8 日（金）

※ 利用上の注意

- ・ 気温・降水量は「低い（少ない）」「平年並」「高い（多い）」の 3 つの階級で予報します。階級の幅は、1991～2020 年の 30 年間における各階級の出現率が等分（それぞれ 33%）となるように決めてあります。（気候的出現率と呼びます）。
- ・ 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い（少ない）場合は「平年に比べて多い（少ない）」、また平年の日数と同程度に多い（少ない）場合には「平年と同様に多い（少ない）」と表現します。なお、単に多い（少ない）と表現した場合には対象期間の 2 分の 1 より多い（少ない）ことを意味します。

お問い合わせは

静岡県病虫害防除所 〒438-0803 磐田市富丘678-1

TEL 0538-36-1543 FAX 0538-33-0780

U R L <https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/norinjimusho/1058658/boujo/index.html>